

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)
／前田 英雄

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

外部資金(科研費や民間資金)獲得のための申請は研究を続けたいものとしては当然の義務である。これまで35年間に研究代表者として採択された科研の件数は12件(延べ20年間、奨励研究、特定研究、一般研究C)と民間1件(平成4年、森永乳業)である。平成24年度は採択された科研費の最終年度であるし、平成25年3月に定年退職するため科研費は提出できない。これまで3年間の成果を報告書としてとりまとめる予定である。

2. 点検・評価

採択されている科学研究費の最終年度と定年退職する年度が重なったが、これまでの食物に関わる教材の科研報告書を作成し、提出予定である。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

生活健康系の最近4年間の平均充足率は89.0%であるが、その数字は同コース内の保健体育や技術・情報・工業の入学者によるところが大であり、家庭科は定員充足率で非常に足を引っ張っている。平成23年度には努力した結果6名が入学予定であるが、これも一時的な増加かもしれない。定員充足率が低い原因として構造的な問題はあるが、いずれにせよ大学院生の教員としての就職率をあげることが、充足率をあげる最も近道だと思う。今年度、前年度に訪問した大学(ノートルダム清心女子大、兵庫県立大学、くらしき作陽大学)に加えて、高知女子大にも本学への進学を勧める予定である。

2. 点検・評価

高知県立大学へも訪問し、栄養教諭の免許を履修している数名に本学大学院の受験を勧めた。家庭コースは前期の受験者はゼロであり、中期1名、後期2名であり、今年度も定員の充足にはほど遠かった。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

24年度は、定年退職の年である。博士課程4年生1名、卒論生1名と留学生1名を指導する予定である。

- 1) 博士課程の学生は23年度資格認定試験に合格したため、さらに論文1編を投稿し、博士論文が完成できるように指導する。
- 2) 学部学生においては、本学の教員採用率向上に貢献できるように指導し、また、卒論研究でも現場で使用できるような教材開発を中心にテーマを設定する。
- 3) 留学生
タイからの留学生(シーナカリンウィロート大学、学部3年生)は、日本の食習慣や文化に興味を持っている。6月に大阪の学会に別の留学生と2人を連れて行き、日本文化に触れさせる機会を設ける。

2. 点検・評価

- 1) フレックスタイムで指導している4年生の博士課程の学生の英語論文が学位論文の締切直前に採択され(平成24年10月末)、博士論文を作成し、公聴会、審査会、最終試験を経て、博士(学術)を取得した。学位論文提出のため年末年始も多忙を極めた。本学在職中、2名の博士輩出に貢献した。
- 2) 指導している卒論生が現役で徳島県の小学校教員採用試験に合格した。
- 3) タイの留学生2人を学会時に西川和孝准教授と大阪に同伴し、日本の文化について触れさせた。9月28日に帰国したが、チューターらとのコミュニケーション不足があり、もっと支援ができたかと反省した

II-2. 研究

1. 目標・計画

- 1) 最近3年間の研究テーマであるビタミンB6欠乏下における分岐鎖アミノ酸添加による脂肪肝発生のメカニズムを血中及び肝臓のリポタンパク質の動態からどの機序を明らかにし研究成果を英文にまとめる。研究成果は英文誌に投稿し、論文として発表する予定である。
- 2) 22年度に行った食品の鉄分を可視化する教材研究を論文としてまとめる。
- 3) 学外の研究者、特に分岐鎖アミノ酸に詳しい四国大学の教授との共同研究を計画している。

2. 点検・評価

- 1) 四国大学の教員と共同している研究課題であるビタミンB6欠乏下における分岐鎖アミノ酸添加による脂肪肝発生のメカニズムの一端を解明し、論文に採択された。
(J. Nutr. Sci. Vitaminol. 59(1) 73-77, (2013))
- 2) 四国大学の教員と共同している研究課題であるサプリメントに関する教育系と栄養系の学生の意識調査を比較した論文を発表した。(四国大学研究紀要自然科学編35, 23-27, (2012))

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 1) 知的財産の副委員長、産総研のプラットフォームの実務者、予防教育科学教育研究センター兼務教員、その他学内の委員会委員(予算・財務管理委員、教員免許状更新講習会実施委員)として本学の大学運営に貢献する。
- 2) 連合大学院生活・健康系連合講座(鳴門教育大学)の食物分野のマル合教員として、資格審査の予備審査に貢献する。平成24年度には1名の教員が資格審査を受ける予定である。

2. 点検・評価

- 1) 知的財産の副委員長、安全管理委員会副委員長、予算財務委員会副委員長、産総研のプラットフォームの実務者、予防教育科学教育研究センター兼務教員として本学の大学運営に貢献した。
 - 1) 鳴門教育大学教員免許更新講習シンポジウム「これからの教員に求められる専門性と免許状更新講習が果たすべき役割について」の準備のために4大学(徳島大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学)への後援依頼や当日の総会司会を務めた。(平成24年10月14日会場:ザ・グランドパレス徳島)
 - 2) 連大の資格審査では家庭分野の予備審査を受けるため、申請書類の準備など協力した結果、コース内の教員が「合」の資格を判定をうけた。
 - 3) 先導的大学改革推進言委託事業である「教員養成モデルコアカリキュラムの発展的研究」の教科内容学協議会の家庭の協議員として初年度の小学校「家庭」の報告の取りまとめを本学と岡山大学で共同で行った。また、第2回の協議会で初年度の成果を発表した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- 1) 附属での教育実習、研究授業、附属の研究会等に参加し、指導助言を行う。
- 2) 韓国の大学の家庭科教員との国際交流をすすめる予定である。
- 3) 連合大学院を修了した中国ウイグル自治区の教員(ウイグル医科大学)との共同研究を行う。

2. 点検・評価

- 1) 附属中学校では平成24年10月25日にLFタイムの講師をつとめ、肥満について講演を行った。
- 2) 仁川教育大学を表敬訪問し、実家教員の教員と日韓の家庭科の授業内容や研究について懇談し、附属小学校における実家の授業を視察し、国際交流を推進した。(平成24年9月15日～9月18日)
- 3) 生姜の抗菌活性についてのウイグル医科大学のAlim Patar教授と共同研究を進めている。
- 4) 本学の支援授業として洲本高校における「学問研究ワークショップ:食物と栄養について」の講師を務めた。(平成24年10月9日)
- 5) 教員免許更新講習「中学校家庭科の食物分野における講義」の講師を西川和孝准教授と務めた。(平成24年8月3日)
- 6) 伊丹高校で教材開発した「栄養と食品:食物中の鉄分の可視化」に関する授業実践を共同研究者(伊丹高校:萩本教諭, 本学:速水多佳子講師)と行った。(平成24年10月1日)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)